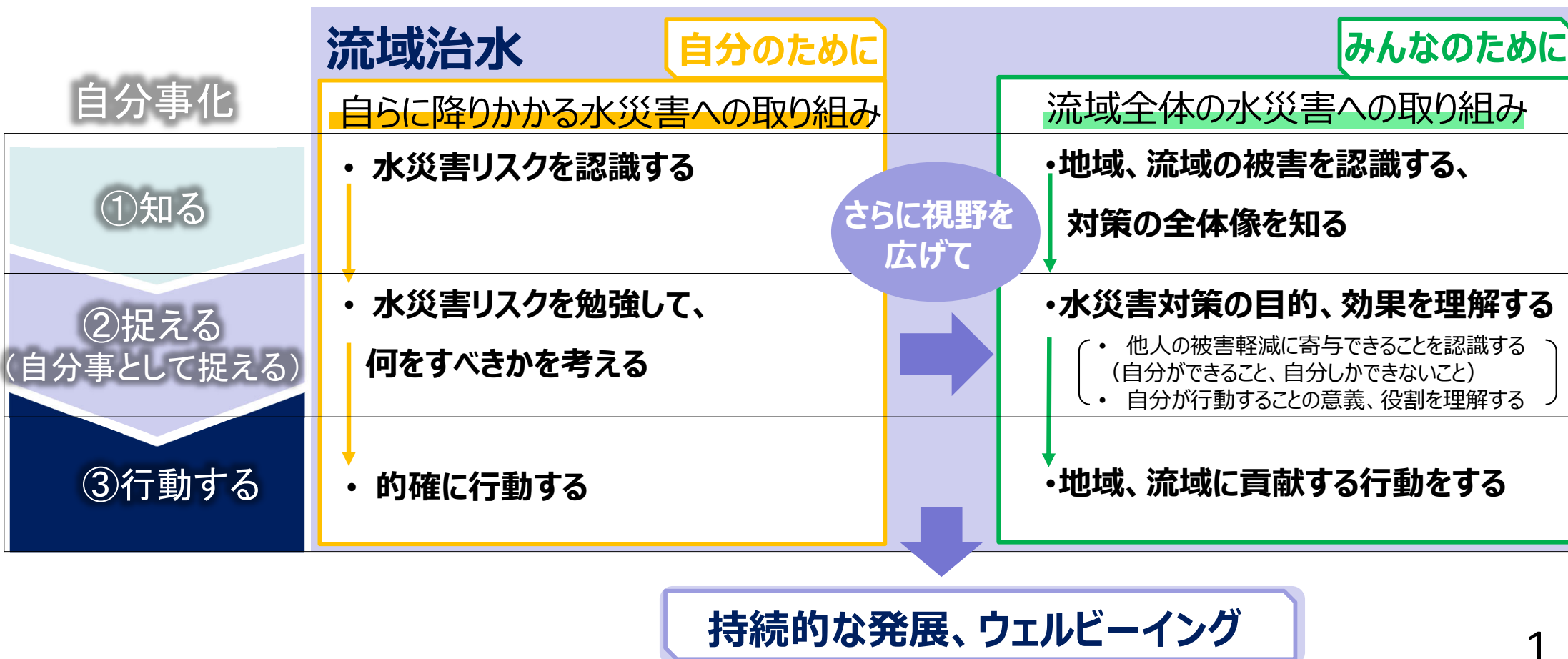




水災害を自分事化し、総力を挙げて流域治水に取り組む

- 住民や企業などが自らの水災害リスクを認識し、自分事として捉え、主体的に行動することに加え、さらに視野を広げて、流域全体の被害や水災害対策の全体像を認識し、自らの行動を深化させることで、流域治水の取り組みを推進する。



水災害を自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす 総力戦の流域治水をめざして

※社会がスローダウンすると自分事と感ずる。
(計画運休、休業、道路の通行止めなど)

1. 背景（流域治水の推進）

by ALL の流域治水

2℃の気温上昇時、洪水ピーク流量は2割増(4℃上昇時4割増)。河川区域の対策だけでは対応できない。

流域のみんなで、自然、産業を含め文化として治水に取り組む。



- ◎持続的に開発しつつも社会的機能を維持しながら災害に備える二刀流方式
- ◎人と人、自然と人、自然と自然のつながり
- ◎流域を俯瞰した取り組み(山川海全部含めて流域治水)

気候変動緩和の取り組みも流域治水

2. 課題

水災害リスクの自分事化

住民や企業などが自らの水災害リスクを認識し、自分事として捉え主体的に行動する。

流域全体の水災害への取り組みへ

水災害から自身を守ることからさらに視野を広げて、地域、流域の被害や水災害対策の全体像を認識し、自らの行動を深化させることで、流域治水の取り組みを推進する。
※流域治水に取り組む主体を増やす(自分のためにから、みんなのために)



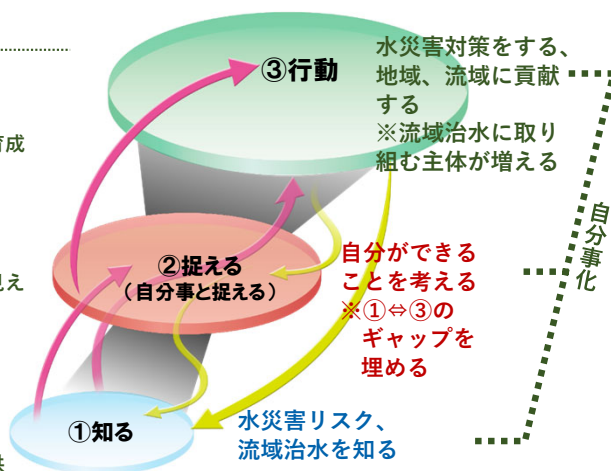
流域治水を推進する上で、自分事と捉えることが課題

3. 流域治水に取り組む主体を増やすための取組方針

大局的には①知る→②捉える(自分事と捉える)→③行動の流れを作り、取り組みの幅を広げ、トップランナー育成や要件化・基準化等を通して流域にも視野を広げていく。

取り組みの例

- ・要件化・基準化
- ・トップランナーの育成
- ・流域治水への貢献
- ・ビジネスへの支援
- ・流域対策への支援
- ・取り組み、効果の見える化
- ・連携活動
- ・教育活動
- ・流域治水の広報
- ・リスク情報等の提供



意識の醸成を図り、国民運動、日本の文化に

日々の生活の中で水害、防災のことが意識され、全国的に水災害リスクの自分事化が図られ、その視野が流域に広がり、社会全体が防災減災の質を高めるとともに、持続的に発展していく。

4. 施策を進めていく上での着眼点と具体策

(1) 知っている人を増やすことと伝え方の工夫

- ◎気象条件を伝えるなど他人化できない状況を定着
- ◎取り組みを促す相手の特性に応じて伝え方を工夫
- ◎インフラツーリズムとの連携など、知る機会を増やす
※ネガティブなことをおしゃれに、楽しいことを伝える。
住民自らのモニタリング

(2) 自分事化の機会創出と手段

- ◎防災教育(住民自ら記憶を伝える、行動を学ぶ)
- ◎水害伝承(記憶の風化を防ぎ教訓を伝える)
- ◎学べるコンテンツ(ウェブ、既存メディア活用)
- ◎補助金、税制優遇等の支援
- ◎防災関連ビジネスの推進、取り組みのアピール
- ◎社会を良くしたいという動機、SDGs

- ◎取り組みの位置づけ、効果可視化(デジタル活用)

(3) 自分事化を促す相手の把握と絞り込み(発信側と受け手側の例)

- ◎キーパーソンのタイプ(盛り上げ、自然環境、研究開発、危機意識)+河川ごとの特徴
- ◎リーダーの育成(防災士、気象予報士等との連携等)
- ◎インフルエンサー活用

- ◎防災教育に取り組む子供と家族
- ◎高齢者、災害弱者、若年層
- ◎リソースが不足している企業、建設分野他企業
- ◎地域のコミュニティ
- ◎金融関係機関

(4) 主体的な取り組みが進むための環境整備

1) 取り組みを実行する仕組みづくり

- ◎きっかけは様々(河川の利用や生態系保全の取り組みから始めることも)
- ◎課題の把握、取組事例の共有と分析、人と人をつなぐ仕組みの構築

2) 社会のモードチェンジ

- ◎ポジティブな情動、同調圧力も ◎国からの情報発信による環境整備から

(5) 持続的に流域治水を推進

- ◎トップランナーの育成
- ◎防災教育を通じて流域に視野を広げる
- ◎農業・農村地域での取り組み(水を貯めることに対する農家と水管理組織の合意形成、防災対策と農村コミュニティ機能の相互依存的発展)

※各水系の流域治水プロジェクト等への反映とフォローアップ

◎ 具体施策

- 地域 個人 企業・団体
- ◎流域治水ロゴマーク、ポスター
- ◎流域治水の日、週間
- ◎河川空間の利活用を通じた意識醸成
- ◎SNS等での情報発信
- ◎インフラツーリズムとの連携
- ◎ダイナミックSABO ◎はまツーリズム推進
- ◎危機管理水位計、簡易カメラ、浸水センサー等の拡充・閲覧周知

- 地域 個人
- ◎防災教育の推進(既存施策)

- 地域 企業・団体
- ◎地域に貢献する水防活動への参画
- ◎流域治水オフィシャルサポーター制度
- ◎防災・減災ビジネスの推進(オープンデータ活用)

- 地域 企業・団体
- ◎デジタルテストベッド

- 地域 個人 企業・団体
- ◎共有プラットフォーム(全国流域治水MAP)

- 地域 個人 企業・団体
- ◎表彰制度(流域治水大賞)
- ◎円滑な避難を支援する人材育成(ファシリテーター派遣の仕組み)
- ◎気候変動リスク開示における民間企業の取り組みの支援(TCFD)
- ◎防災教育に関する素材提供
- ◎水害伝承に関する情報(コンテンツ)の普及・拡大

大淀川水系流域治水協議会

計画：「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに関する令和6年度の取組計画を①②③の別に記入（横断可）

流域にも視野を広げる
（自分のためにも、みんなのためにも）

連携活動

- メディアと防災気象情報について勉強会を実施（2回14機関）
- 各機関との防災訓練（5回）
- 流域イベントで、流域治水をPR（4回）
- 防災イベントによる啓発活動

教育活動

- 防災士ネットワーク、河川協力団体と協働で防災教育に関する出前講座を実施（1回：国）
- 河川協力団体と協働で流域治水に関するシンポジウムを開催（2回：国）
- 防災教育・流域治水の啓発に関する出前講座を実施（国）

訓練活動

- 住民参加型の避難訓練を実施

水防活動の支援

- 防災士、地域防災リーダー等の育成

水災害対策の支援

- 避難施設等の設備更新
- 避難場所・避難路を避難確保計画に位置付け
- 避難所運営マニュアルの整備

リスク情報等の提供

- 水防情報図の市町村への配布（2市2町：国）
- 洪水ハザードマップ改訂
- 雨水出水浸水想定区域、計画降雨浸水防止区域図の作成（宮崎市、都城市）
- ワンコイン浸水センサの実証実験（宮崎市、都城市、国富町、綾町）
- 防災無線、防災ラジオ等による情報伝達

流域治水の広報

- ラジオ（1回2局）、新聞（1紙）、CATV（1回）でハザードマップや防災訓練、マイタイムライン等に関する啓発活動を実施
- 市長報等で流域治水の広報

計画策定

- 立地適正化計画の作成・見直し
- 要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

周知、連携活動
中心

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

情報提供、教育
活動中心

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

計画策定や具体
行動の支援中心

取り組み・主対象		第1四半期				第2四半期				第3四半期				第4四半期				
①知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体					●	●	ラジオや新聞で防災情報を啓発										
		市町報で流域治水の広報																
	◎連携活動 地域 個人	●	メディアと防災気象情報についての勉強会								●							
		●	●					●					●	●	各機関との防災訓練			
		流域イベントで流域治水をPR																
②自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	水防情報図の配布、洪水ハザードマップの改訂、雨水出水浸水想定区域図の作成																
		防災無線、防災ラジオによる情報伝達																
		ワンコイン浸水センサの実証実験																
	◎教育活動 地域 個人						●	防災士ネットワーク、河川協力団体と協働で防災教育、出前講座										
			●					●	●	●	●	●	防災教育・流域治水の啓発に関する出前講座					
				●									●	河川協力団体と共同でシンポジウム開催				
	◎訓練活動 地域 個人	住民参加型の避難訓練																
③行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進、立地適正化計画の作成・見直し																
	◎水災害対策の支援 個人	避難施設等の設備更新																
		避難場所・避難路を避難確保計画に位置付け、避難所運営マニュアルの整備																
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体	防災士、地域防災リーダーの育成																

4

令和6年度 自分事化に向けた取組計画

宮崎県

〈宮崎県〉大淀川・小丸川水系流域治水協議会

計画：「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに関する令和5年度の取組計画を①②③の別に記入（横断可）

流域にも視野を広げる
（自分のためにも、みんなのためにも）

水災害・流域治水の広報

- 宮崎県防災の日における普及・啓発（イベント・テレビCM等）（危機管理課）
- 防災週間における普及啓発（テレビCM・SNS広告等）（危機管理課）
- 懸垂幕やポスター等で土砂災害に関する啓発活動を実施（砂防課）

教育活動

- 防災士養成研修の実施（R5. 4月末 県内の防災士 6,674人）（危機管理課）
- 学校、企業、自治会等への防災士出前講座の実施（年120回程度）（危機管理課）
- 小中高校や地区住民への防災教育や流域治水などに関する出前講座の開催（河川課、砂防課）

リスク情報等の提供

- 防災情報共有システムによる防災情報の共有（危機管理課）
- 土砂災害警戒区域等の公表（砂防課）
- 洪水浸水想定区域図の作成（宮崎、都城、小林、高岡、高鍋土木事務所）

計画策定

- マイハザードマップ作成支援（砂防課）

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人・企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

#7
〈宮崎県〉大淀川・小丸川水系流域治水協議会

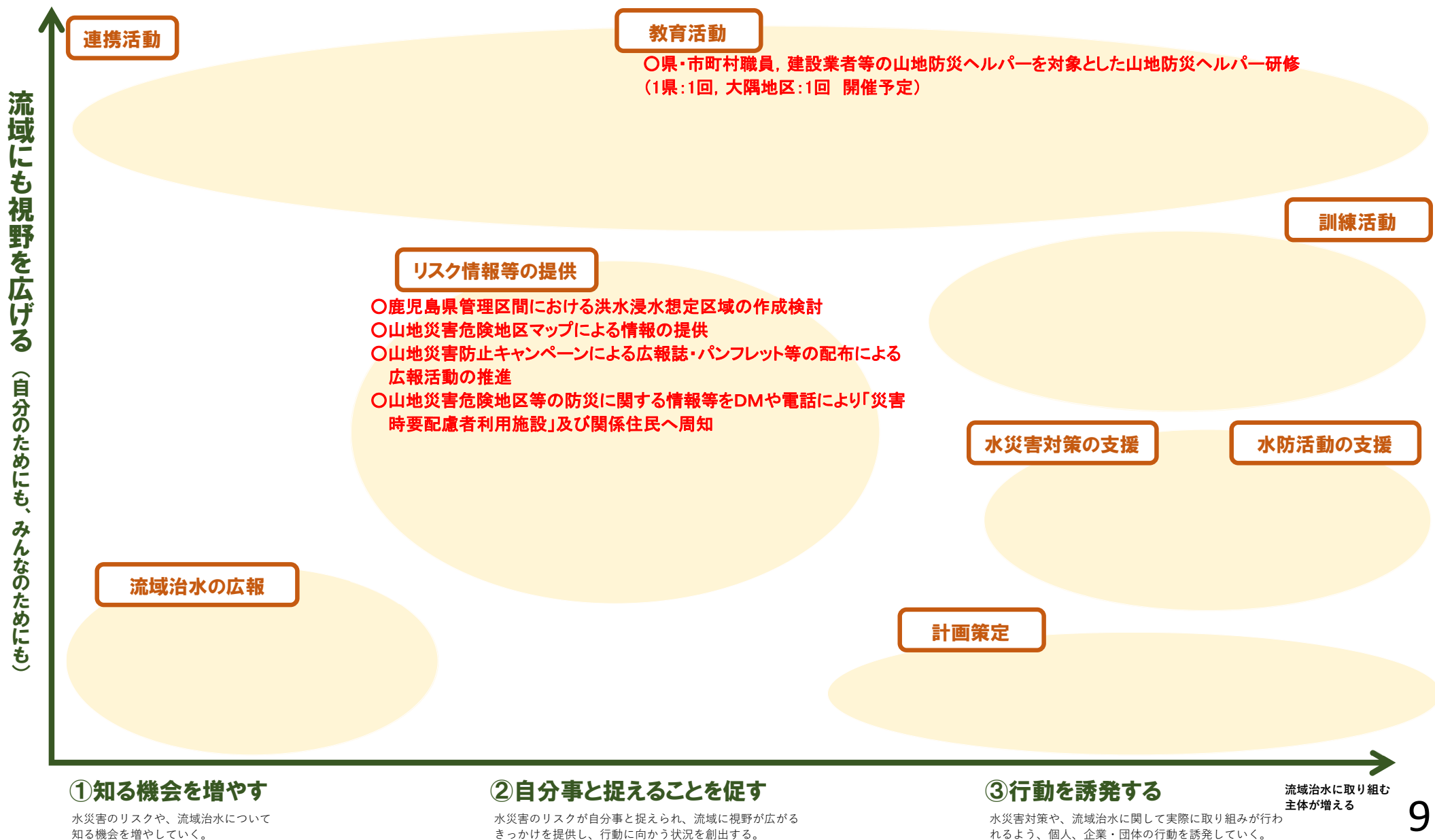
取り組み・主対象		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
①知る機会を増やす	◎連携活動 企業・団体												
	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体	SNSや広報誌等による水害・土砂災害に関する啓発活動											
		イベント、テレビ・SNS広告による防災啓発活動											
②自分事と捉えることを促す		懸垂幕やポスター等で土砂災害に関する啓発活動を実施											
	◎教育活動 地域 個人	防災講話、出前講座											
		防災士の養成、防災士出前講座											
	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	土砂災害警戒区域等の公表											
		洪水浸水想定区域図の作成											
		防災情報共有システムによる防災情報の共有											
③行動を誘発する	◎訓練活動 地域 個人												
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体												
	◎水災害対策の支援 個人												
	◎計画策定 地域 個人 企業・団体	マイハザードマップの作成支援											

令和6年度 自分事化に向けた取組計画

鹿児島県

〈鹿児島県〉大淀川水系流域治水協議会

計画：「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに係る令和6年度取組計画を①②③の別に記入（横断可）



#10
〈鹿児島県〉大淀川・小丸川水系流域治水協議会

取り組み・主対象		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
①知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報 地域 個人 企業・団体				流域治水に関する教材作成			川のワークショップを活用し流域治水を周知					
	◎連携活動 地域 個人												
②自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	鹿児島県管理区間における洪水浸水想定区域図の作成検討											
		山地災害危険地区の情報提供											
	◎教育活動 地域 個人												
		県・市町村職員、建設業者等の山地防災ヘルパーを対象とした山地防災ヘルパー研修											
	◎訓練活動 地域 個人												
③行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体												
	◎水災害対策の支援 個人												
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体												